



小川 貴則

住之江自衛消防協議会会長
関西電力株式会社 南港発電所 所長

攻めの防災管理を目指して

私も南港発電所は、運用開始から今年で27年目を迎えますが、これまで危険物や薬品に関わる大きな事故・災害に見舞われることはありませんでした。これもひとえに関係行政のご指導のお陰であり、また弊所関係者が愚直に防災管理に取り組んできたことも大きかったと自負しております。

これまでの防災管理は、自所や他事業所の危険物の漏洩や火災・爆発等の異常現象の原因を探り、それを自所の防災活動に反映するといった、いわば受け身(守り)を主体としたものでした。しかしながら九州北部豪雨のような異常現象が各地で発生する等、従来のやり方では対応できない事象も起こっており、新たな管理方法を確立する必要性を感じているところです。

あらゆる異常現象にも即座に、また的確に対応するためには、関係者一人ひとりが決められたことを守りつつ、さらには、やらされるのではなく、自らが主体的に安全や事故防止のために必要と思うことを考え・行動(考動)する、いわば「攻め」の姿勢が必要であると考えています。

そのような考えの下、現在、弊所では協力会社も含めた全ての従事者を対象に防火・防災教育、また各種防災訓練等、関係者の知識や意識を維持向上させるための従来からの取組みを継続して行っていることに対し、他所の災害事例を基に一人ひとりが原因や対策等を考え、その結果が見える化することで当事者意識や危険感受性を向上させる新たな取組みを始めました。道半ばですが、今後このような取組みをさらに拡大・深化させ、関係者一人ひとりが日頃から安全や防災に対する感受性を高め、自ら考えて一步先の「考動」をするような組織の醸成を目指しています。

今後も引き続き関係行政の皆様のご指導も仰ぎながら、一層の防災管理活動の充実や災害対応能力の向上に努めてまいりたいと考えています。

